

# 情報モラルと情報活用をセットで学ぶ 「GIGAワークブック」の開発について



# 情報モラルと情報活用をセットで学ぶ 「GIGAワークブック」の開発について

一般財団法人LINEみらい財団 事務局長 西尾勇氣／事業推進チーム 高野洋介

新しい学習指導要領では、小中高等学校に共通する「学習の基礎となる資質・能力」として、情報モラルを含んだ「情報活用能力」を掲げています。情報モラル教育と情報活用能力の育成は、共に図ることが求められています。

コミュニケーションアプリ「LINE」を運営するLINE株式会社（現LINEヤフー株式会社）はネットの広がりとともに社会問題となっている子どもたちのネットトラブルなどを受け、2012年から情報モラル教育に取り組んできました。さらに、これまでに得られた知見をより広く社会に還元するため、2019年に一般財団法人LINEみらい財団を設立。2022年には学校向けに情報モラルと情報活用を合わせて学べる教材「GIGAワークブック」を開発、公開しました。一般財団法人LINEみらい財団 西尾様、高野様にお話を伺いました。

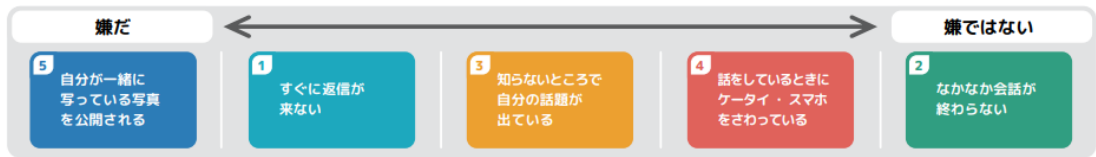
## ▶本教材開発の背景を教えてください。

### ■SNSを介した自己分析で、情報モラルを自分事化

LINE株式会社（現LINEヤフー株式会社）は2017年、「GIGAワークブック」（以下、本教材といいます。）の前身である「SNSノート」を開発しました。これは、静岡大学教育学部准教授の塩田真吾氏が中心となって開発した「カード比較分類法」を用いた教材です。SNS利用者の視点に立ち、自分がされて嫌なこと、嫌ではないことを自ら分類することで、事象に対する自分の受け取り方と相手の受け取り方との違いを認識します。SNS上でのコミュニケーションは、対人のコミュニケーションとは異なる性質を伴うことについて、自覚を促すものでした。この取組は、本教材のベースとなっています。



たかし



花子



「カード比較分類法」の一例。同分類法は、本教材にも引き継がれ、冒頭部分に掲載されている。

## ■ 1人1台、端末の所持で情報モラル教育がより重要に

文部科学省のGIGAスクール構想により、全国の児童・生徒に1人1台のコンピュータ端末が行きわたった現在、ネットを介したトラブルは学校外だけでなく、学校の中でも発生するようになっています。新しい学習指導要領でも「情報社会で適正に活動するための基となる考え方や態度」を「情報モラル」と定義し、指導の充実を求めています。

同財団の調査では、教員の8割が情報モラル教育を必要だと感じている一方、年間の授業時数は2時間以下が5割を占めていました。また、教員の4割は授業時数が不足していると答えたものの、時間を増やすことは難しいという回答が半数近くにのぼりました。この現状を受け当団体では、前述の「SNSノート」をアップデートし、現在の教育現場の状況に合わせた本教材の開発に着手しました。

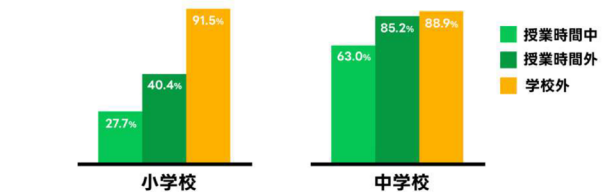
## 1人1台端末の普及による情報モラル教育の変化

### ICTやインターネットが学習の必須ツールになる時代において情報モラル教育のアップデートが必要

ネットトラブルは校内でも発生するようになり家庭や個人の問題だけでなく学校内の問題にも。



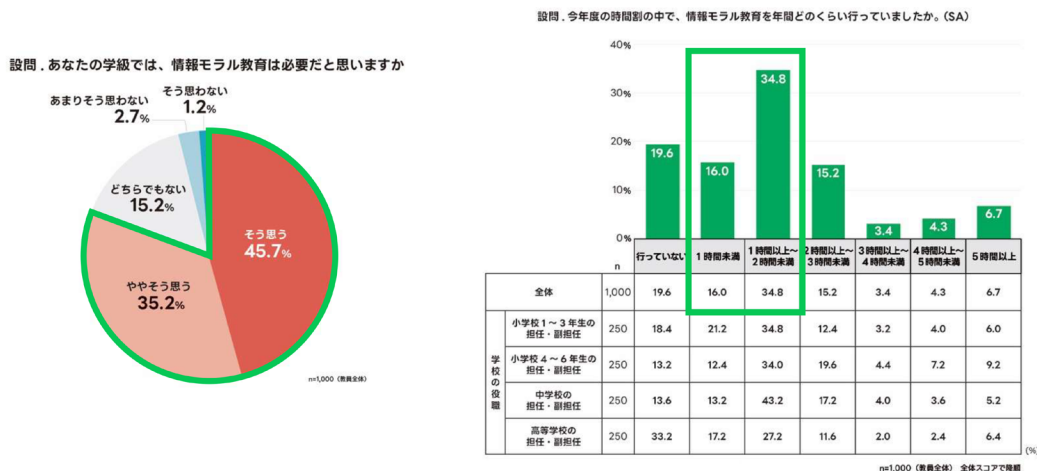
### トラブルの発生したタイミング



LINEみらい財団「一人一台端末環境におけるICT活用と情報モラル教育の実践に関する調査報告書」(調査期間:2021年2月~3月)対象:小学校N=120/中学校N=108

## 教育現場における変化と現状調査

### 情報モラル教育は必要と思う教員は8割を超え、 年間の授業実施時間は「2時間未満」が約5割



LINEみらい財団「GIGAスクール構想における情報モラル教育の実状等に関する調査」(調査期間: 2023年3月～4月)より

### ▶本教材の概要、工夫点を教えてください。

### ■3つの特徴

本教材は、児童・生徒の端末にPDF形式で格納された教材です。特徴は3つあります。1つ目は、情報活用と情報モラルをセットで学べる点です。これまでの情報モラル教育ではリスクのみが強調されてきましたが、この教材では、今後必要になる情報活用スキルの一部として情報モラルを位置づけています。

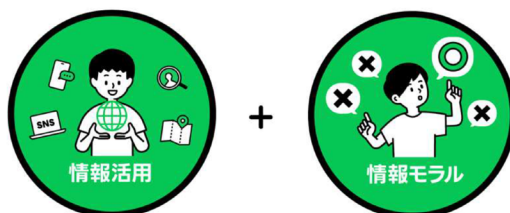
### GIGAワークブック概要

### 「GIGAワークブック」のポイント①

#### 情報活用と情報モラルをセットで学ぶ

これまでの情報モラル教育は、情報のリスクのみが強調されることが多くありました。本教材では、リスクだけでなく、上手な情報活用と情報モラルをセットにして学ぶことができます。

### 活用型情報モラル教育



2つ目は、本教材が45分授業だけでなく、朝の学活のような短い時間でも学べる点です。普段の授業だけでなく、その導入や必要な場面で随時取り入れてもらえるよう15分でも使えるようにしています。例えば、理科の時間にアサガオの観察で写真を撮る前に本教材を使うといった活用が可能です。なお、本教材は、ICT活用に関する8場面×3つのテーマ（「活用スキル」、「情報モラル」、「トラブル対応」）の合計24教材で構成されています。

## GIGAワークブック概要

### 「GIGAワークブック」のポイント②

#### 45分でも15分でも実施でき、各教科での情報モラル教育が可能に

情報モラル教育は、学級活動や道徳、総合的な学習の時間などを使い、45分で実施するケースが一般的です。本教材は45分の実施に加えて、ICTの活用8場面において、活用スキル・情報モラル・トラブル対応が各15分で学ぶことができ、国語や理科など各教科内の授業にも取り入れることが可能です。

#### ICTの活用8場面を設定



#### 8場面で必要な3つのテーマ



最後に3つ目のポイントとして「3C」という複数の視点で学べる点です。3Cというのは、「消費者」、「市民」、「職業人・作り手」の3つの英単語の頭文字です。本教材は児童・生徒の発達段階に応じて、小学校低学年向け、小学校高学年向け、中・高校生向けの3種類があります。それぞれ、「悪口」を例にすると、小学校低学年では消費者的な視点で「悪口を言わない」から始まり、高学年ではよき市民（環境づくり）の視点として「悪口を止めさせる」、中・高校生ではよき作り手として「悪口をどうすれば止められるか」その方法（技術）の考案を促すというように、教材の中身を変化させています。

また、自治体に合わせたカスタマイズにも対応しており、地域のデータや、地域で定める目標やルールなどを盛り込むことができます。

## 「GIGAワークブック」のポイント③

### 3C（消費者、市民、職業人・つくり手）の視点で考える

発達段階に応じて教材を分けており、良き消費者としてリスクを回避する力だけでなく、良き市民としてどう振る舞うか、そしてどのようによき作り手となっていくかを学ぶことができます。



## 導入済自治体のオリジナルページ

### ①自治体の取り組み・方針



### ②自治体独自のルール



### ③自治体独自の調査結果



### ④その他



## ▶本教材の活用事例について教えてください。

前述のように、本教材は各自治体独自のコンテンツなどを掲載するなどのカスタマイズが可能となっており、神奈川県鎌倉市「GIGAワークブックかまくら」を皮切りに、11都県42自治体（2024年2月時点）が公式教材として本教材を導入決定いただいています。

本教材の使用時、先生は教卓横のモニターなどで投影しながら授業を進行します。児童・生徒は自身の端末で本教材のPDFデータを開き、自分の考えた答えを直接書き込みます。そして、先生が行う画面共有を通じて、友達と比較し互いに議論が展開できるようになっています。自分と相手との違いを自覚し、自らの中に落とし込む授業が可能となっています。

## 導入実績 —11都県42自治体—

※2024年2月現在、公開可能な自治体様のみ掲載しています。  
※広域自治体と市区町村自治体で色分けをしています。



## 導入自治体事例 —神奈川県鎌倉市—

教材公開時にはメディア告知の上、公開授業を行い教材の利用について周知協力いただきました。



鎌倉市立深沢小学校での授業の様子  
児童・生徒用の教材については、それぞれに貸与されているタブレット端末やPCにデジタル版として配布可能となっています。

▶今後の展望を教えてください。

### ■時代に合わせて順次教材を追加

本教材には毎年教材を追加する予定です。現在8場面に3つのテーマがありますが、「活用スキル」の延長として思考力・判断力を育む教材を新たに加えます。また、話題のChat GTPを始めとする生成AIなど、新しい情報技術に対応する力を養う教材の公開準備を進めています。昨年は和歌山県警察などと連携して、SNSを使った性犯罪に巻き込まれないための性被害防止教材もつくりました。情報防災（災害時の情報とのつきあい方）や金融に関する知識もワークブック内で学べるように、教材を更新していきます。

教員へのサポートとしては、情報リテラシーに関する研修を実施している他、クラスに合った教材が探せる「逆引きツール」も開発予定です。「逆引きツール」は、学年や目的、授業時数などを選択すると適した教材が提示されるというものです。また、年間指導計画の例も豊富に用意しています。本教材は、当財団調査研究部門が児童・生徒そして先生方の状況調査を行い、その知見をもとに開発しました。様々な教育に関するデータを収集する中で、今後は全ての人がデータを正しく読み解き、それらを有効に活用する力（データリテラシー）を身に付けることが重要であると感じています。まずは、教員向けサポートとしてデータリテラシー向上のための教材も開発予定です。

**教員向けサポート**

**①教員のデータリテラシーを向上させることを目的とした教材**

- ・ 個別最適化学習などの様々なデータを読み解くための教員向け教材
- ・ 「何が課題か」と「何をどう見るべきか」を理解するための基礎を学ぶ

教員向けデータリテラシー向上を目的とした教材の内容。個別最適化学習を指導する際に活用できる、様々なデータを読み解くための基礎を学ぶことができる。

▶消費者教育を担う先生方や、一般消費者の皆さんへメッセージをお願いいたします。

**■より良いデジタル社会を目指して**

当財団は「これからの子どもたちが生きていくデジタル社会を、より良いものにするために」という理念を掲げています。子どもたちを主体にしてはいますが、達成には、先生方や保護者の皆様など子どもたちを取り囲む大人を含めた幅広い世代の協力が欠かせません。より良いデジタル社会をつくっていくために、できることから一歩ずつ、お力添えいただけますと幸いです。

▶ありがとうございました。



もっと知りたい方はこちら！

一般財団法人LINEみらい財団ウェブページ「新たな活用型情報モラル教材『GIGAワークブック』、全国の学校で活用いただける汎用版を無償で提供開始」：

<https://line-mirai.org/ja/events/detail/68>

同ウェブページ（本教材開発経緯）「学校の“1人1台端末”に対応した新たな活用型情報モラル教材『GIGAワークブック』を開発」：

<https://line-mirai.org/ja/events/detail/67>